



阿武郡報

第五十三號

社頭 曉

御製

かみまつるわか白妙のそての上に
かつうすれゆくみわかしのかけ

皇后宮御歌

つたへさく天のいはやもしのはれて
あかつき清し伊勢の神かさ

東宮御歌

とりかねに夜はほのほのとわけそめて
代々木の宮のもりとみむゆく

次 目

□ 庶 務	一 町村長集會……………二
	一 町村吏員任期満了……………六
	一 報徳美談……………七
	一 結婚に就き改善すべき事項……………八
□ 兵 事	一 陸軍定期退營者……………一一
	一 陸軍現役兵進級者……………一二
□ 産 業	一 農事視察報告(其ノ四)……………一三
	一 現在使用せる稻拔器……………一二
	一 各種規約貯金の現在……………一四

大正十年一月廿四日印刷
大正十年一月廿五日發行

發行所 山口縣阿武郡萩町
山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷
印刷所 萩 響 海 館



◎庶務

□町村長集會

一月七、八日の二日間本年に於ける町村長初集會を開催せり當日郡長より指示したる事項其の他左の如し因に第一日は恒例に依り本郡選出縣會議員の縣會開會中に於ける狀況談ありたり

指示事故

一、町村吏員優遇に關する件
多年町村長の職に在りて其の効勞顯著なる者に對しては既に叙勳恩典の事あり政府に於ては尙今後適當なる方法に依り吏員優遇の途を講せらるへしと聞く町村に於ても進んで退隱料退職給與金等の支給方法を設くる等優遇の手段を講すべきこと最も必要の事たるは言を俟たず未設の町村に在りては速に之を制

定して専念職務に精勵せしむることを期せられたし
二、民力涵養の實行に關する件
戰後民力涵養に關しては各位の協力に依り各町村共
必行要目に對し銳意實行を期せられつゝあるも由來
此の事たる不斷の努力に待たざるへからざるを以て
今後一層之か普及徹底を期し青年團に戸主會婦人會
報德會其他各種團體を獎勵誘掖して益其の奮起を促
し所期の目的を達成すべく努められたし

三、自治事務講習所に關する件

町村吏員を養成訓練し以て自治事務の整善を期する
は現下時勢の要求に伴ふ必要事業なりと認め本縣に
於ては明年度新に自治講習所を設置することせり
其の講習方法及講習生選定方法等に付ては更に決定
の上發表せるへしと雖各位は大體左記事項を了得し
本講習所の効果を全からしむるよう人選等豫め留意
せられんことを望む

一、講習期間 三ヶ月 年四回

二、講習員の定員 五十名

三、講習員には縣費より一人に付一ヶ月五圓を補給
し實地視察の爲旅行の場合には尙小額の旅費を補
給する見込

四、納稅滯納者根絶に關する件

四、講習員は市町村書記とし別に資格を制限せざる
見込なるも町村長に於て之を選定せらるゝに當り
ては年少氣鋭將來町村吏員として勤績の見込確實
なるものを選ぶこと但縣は費用補給の條件として
一定の期間其の町村に在職するの義務を負はしむ
るの見込なり

六、流行性感胃豫防に關する件

掖を要す今回内務省及本縣に於ては居住區域の擴張
整理、住宅の改善、教化の普及、衛生施設の完備、
産業狀態の改良、出稼移住の勸奨等改善事業に對し
相當經費を支出して獎勵せんとす此の際町村に於て
も相當計畫を樹て改善上適當の方法を講せられたし
惡性感胃は昨年七月終熄の後未だ流行するに至らず
と雖既往流行の實蹟に顧みれば大正七八年(自七年
八月至七月)の流行に於て本縣内の患者四十三万五千五百二
十三人中死者四千五百二十四人、同八九年(自八年
七月至九月)の流行に於て患者五万三千二百二十五人中死者三
千四百三人の多數を出し慘禍の及ぶ所戰慄禁する能
はざるを覺ゆ時恰も其の流行季に際會せるか故に一
層警戒を嚴にし客年十月十五日山口縣告諭第三號流
行性感胃豫防心得の普及徹底に努められたし

七、「トラホーム」豫防に關する件

「トラホーム」豫防に關しては常に注意實行に努めら
るゝことと信するも昨年九月二十一日縣令第七十一
號「トラホーム」豫防に關する件の勵行に努め該細則
第三條町村長に於て爲すべき住民の檢診は可成速に
之を行ひ該訓令第一條町村長の設備すへき「トラホ

五、部落改善に關する件

五、部落改善に關する件
部落改善のことたる部落の自奮自勵を促すこと最も
緊要なりと雖部落所在の町村に在りては特に指導誘

八、教育設備に關する件

「ム」患者名簿は遅くも本年三月末日迄には整理完成すると共に患者に對しては經症と雖治療の徹底を期せられたし
教育設備に關する件
教育實績の上進は教育者の奮勵努力に俟たざるべからざるも之か設備の完否が重大の關係あるは言を待たざるなり特に時代の要求に應じ科學的智識の普及と國民体育の向上は焦眉の急にして之か設備に關しては屢次各位注の意を促し各位亦熱心盡瘁の結果之が改善の氣運を見るに至れるも實蹟未だ昔から殊に理科教室の設置必要教辦の充實体育器械の完備等には一層の努力を拂ひ校長教員をして十分其の理想を發揮し内容の充實に一段の奮勵を望む

九、教員旅費賞與に關する件

教育設備の完備を期すると共に教員の實質改善に努めしむるは最も緊要なり教員の學事視察諸集會への出席等は修養上特に必要なるも旅費額の乏しきより實施上困難なるものあり曩に本縣に於ては旅費支給規程の改正あり本郡に於ても來年度は之に準して教員旅費支給規程を改正すると共に學事視察諸集會出席を奨勵し大に實際の修養に努めしめんとす各位此

十、青年團及補習學校出席督勵後援に關する件

青年團の指導補習教育の徹底は地方改良民力涵養上の一大重要事項なり教員の努力と各位の後援とにより漸次成績の上進を見つゝあるも猶出席状況に至りては全員の半數に過ぎざるものあるは頗る遺憾とする所なり是れ團員生徒の自覺乏しきによるべきも一面之が奨勵指導の不足に基くものなしとせず而して教員負擔の過重なる之を責むるに恐るるものあり各位は町村有志と協力して一層其の後援に努め出席を督勵し以て之が改善を期せられんことを望む

十一、小學校教員講習會開催に關する件

本縣に於ては來年度第一學期に於て現に准教員代用

十四、農業倉庫に關する件

昨春來經濟界の動搖に依る打撃は逐農業者をも其渦中に投せしめたり此時に當り農産物就中米藁を保管し之に金融の便を與へ價格の騰落を平準にし以て需給兩者間の利便を圖るは農業倉庫の活用を俟つべきもの甚だ多きを以て之が既設地方に於ては農家に對し極力之が趣旨効用を理解せしめ其利用を慫慂し又本縣に於ては大正十年度之が設置補助費金壹萬圓(大正九年度六千圓)を計上せられたるを以て未設地方は此際特に之か經營を促進し以て經濟界激變の影響を軽減せしめられたし

十五、産業組合に關する件

近來勃發せる社會の問題は主として分配の不均衡に因る經濟問題に關するもの其の部を占むるものあるか如し而して産業組合は是等問題の調和を圖る爲め極めて適當なる機關たるに依り經濟界變調の今日特に之か事業を充實擴張し以て相互共濟の實を擧げしむると共に經濟的進展の基礎を鞏固ならしむる様督勵を加へられんことを望む

十六、園藝農作物病虫害驅除豫防に關する件

蔬菜に於ける蚜虫類「サルハムシ」「カブラバチ」「ウリ

十二、青年團指導者協議會開催の件

本縣に於ては來年度に於て青年團指導者幹部及青年團關係の官公吏等百二十名を會して協議會(會期四日間)を開催の豫定にて本郡より十四名出席せしむべきに付出席配當を受けたるものに對しては旅費を補助する様準備ありたし

十三、青年團武道指導者講習會に關する件

武道指導者の技藝を練磨し武道の精神を修得せしむる爲來年度本郡内二ヶ所に於て一週間宛之が講習會を開催すべきに付各町村より一名乃至二名講習員を出席せしむる様準備ありたし

十四、教員の職に在りては成績優良なるものの中其學歷を査定し男女各約四十名を選抜し男女兩師範學校に於て拾週間講習をなし終了後成績を考查し尋常科正教員の免許狀を授與し又第二學期に於て現に尋常科正教員の職に在りて成績優良なるもの男女各約四十名を選抜し男女兩師範學校に於て本科正教員檢定科目中約半數に付十二週間講習をなし終了後其の成績を査の上小學校本科正教員の免許狀を授與せらるゝ豫定にて入講教員は休職となるべきに付可成休職給を給せられたし

ABUGUNPO

「パイ」病に於ける各種介殼虫及蒼痲病等は近時益々蔓延し生産額を減少し品質を損すること夥しきものあるを以て將來適當なる地域に依り驅除豫防組合を設けしめ共同的作業に依り徹底的驅除に努められたし

十七、公有林野造林奨励に關する件

本縣大正十年度公有林野造林奨励費豫算額は壹萬五千圓にして大正九年度に比し五千圓を増加せり畢竟町村有林野造林完成の急務なるか爲なるを以て各町村に於ては既定計畫を遂行するは勿論新計畫の樹立を急し速に本事業の完成を期せられたし

十八、道路改善に關する件

近時運輸交通用具の發達及物資需用増加に伴ひ道路の改善益々切なるものあり而して道路法實施と共に管理者の責務重大を加へたるを以て將來町村道の新設及維持管理に付き最善の施設をなし以て道路改善の實を擧げられんことを望む

十九、水防補助に關する件

河川法準用河川沿川町村に於ける水防準備に於ては相當施設中と信するも未だ其成績の見るべきものなきを遺憾とし縣は大正十年度に於て之か補助費千五

百圓を計上せられたるを以て速に準備を完成せられたし

注意事項

- 一、宿直勤務監督に關する件
- 二、學校醫學會に關する件
- 三、師範學校第二部入學期に關する件
- 四、山口高等女學校修學年限に關する件
- 四、家事裁縫教員養成所修業年限に關する件
- 六、工業學校生徒應募勸誘の件
- 七、公立學校職員年功加俸に關する件
- 八、商品陳列所設置に關する件
- 九、各種展覽會開設に關する件
- 十、畜産業奨励に關する件
- 十一、全國畜産博覽會開設に關する件
- 十二、海軍志願兵徵募に關する件
- 十三、徵兵検査に關する件
- 十四、寄留地に於て勤務演習に應じ又は簡閱點呼に參與すべき者に關する件

町村吏員の任期満了

町村名	氏名	任期満了
大井	山本吉郎	九月十三日
椿井	八道八十一	九月三十日
山田	岡小市	十月二十二日
明木	内藤九郎	十二月十六日

本郡内町村長、助役及収入役に於て本年中に任の期満了するもの左の如し

町村名	氏名	任期満了
明木	藤井倉太郎	二月二十七日
見島	長谷川房次郎	四月八日
大井	山根辨作	四月二十九日
田萬	岡崎義式	五月二日
紫福	岡市五郎	五月十七日
佐々	山崎文輔	五月二十日
彌富	松井章吉	五月三十日
山田	大田民藏	九月三十日
地福	三戸萬年	十一月九日

町村名	氏名	任期満了
生雲	阿川儀太郎	二月十五日
佐々	三浦正藏	三月四日
小川	下義市	四月十八日
地福	村上與作	五月二十一日
三早	古田爲藏	五月二十五日
篠生	河村藏吉	五月二十八日
須佐	齊藤清一	十二月二十二日
田萬	梅地茂一	十二月二十二日

報徳美談

澆季の世知恩報徳の念漸く薄く一般人士の憂慮する所なるか茲に異郷に在りて師恩を忘れざる一美談あり去る一月四日椿西尋常高等小學校訓導厚母清賢氏に宛て匿名を

ABUGUNPO

町村名	氏名	任期満了
佐々	梅田一郎	三月十一日
田萬	有田龜吉	三月十三日
小川	原庄之助	四月十三日
川上	阿武道助	五月十一日

以て爲替券拾圓を封入したる一封の書狀到着せるか其の文面左の如し

拜啓新春の砌先生様には其の後愈御機嫌よく御過しの御事と奉拜察候私にも母校にて先生様の御訓導により今般辛うして自治の道もつき常に先生様の御高恩を如何にして報い申さんかと心遣ひ居候者に有之候も何分菲徳短才の某別に名案も浮ひ不申失禮とは萬々承知致居候も御菓子の一つなりと御召上り被下候はど不肖の光榮不遇之候何卒快よく御受納被下度祈上候失禮には候へども匿名の段不惡御許被下度候敬白

大正十年一月四日

厚母清賢殿

右書狀は發信局のスタッフに依れば平壤より覆せられたるものことなり斯の如きは椿村か本郡内に於て有數なる治績を挙げ報徳會亦成績良好にして従つて村民の報徳感念の旺盛なるものあるに因ると雖も一面厚母訓導か多年誠實以て子弟教養の爲に盡瘁したる事實の表現ども見るを得へし椿村報徳會は昨年總會に於て(師の恩忘れざる爲め恩義ある師匠には年一通以上訪問音信又ば慕參をなすこと)を實行事項として協定せしことある如く村民一般教育を重んじ謝恩の念殊に深きものあるを偲はしむ

兎角に年頭の美談といふへし

結婚に就き改善すべき事項

本項は東京に設立せられたる生活改善同盟會に於て調査決定せるものにして民力涵養の上にも適切の事項と認め茲に載録して参考に資す

結婚は人生の大事で一身にとつても一家にとつても眞に禍福の岐れる所でありますから本人は勿論父兄に於ても慎重に考慮して之を行ひ悔を貽さぬ様にしなければなりません。今日我邦では結婚の根本義である相互の人格健康將來の責務等は比較的重視せず却つて支度披露祝儀等外形に屬する事にばかり力を入れ兎角虚飾に流れる弊があります。縦し左程でないにしても徒に子女の愛に溺れて身分不相應の衣服調度を調べて得意として居るものが尠くありません。そして世間では之れを普通の事の様に考へて居て容易に改善の實の擧りませぬのは洵に慨嘆の至りに堪へませぬ。依つて左に特に改善を要する事項を掲げて世間の参考に資したいと思ひます

一、婚約を爲すには先づ相互の健康診斷書を交換するがよろしい。我邦では婚約の前に相互の血統丈ば可なり精しく問合せますが本人自身の健康状態を精査す

することが必要であります。

三、結婚費は年收の三割以下が適當であります。我邦は子女の結婚の爲め他の文明國に比べて(別掲統計参照)著しく多額の経費を支出して居るのであります

其の譯は必要以上に餘計な衣類を拵へたり身分不相應に盛大な披露會を催したりするからであります。故にこれ等に要する費用を節約すれば各階級を通じて年收の三割以下に減する事か決して困難でないと思ひます。此處で結婚費と申しますのは嫁入又は婚取の爲めに必要を生じた新婦の禮服、寢具、諸道具、裝身具等の新調や、儀式披露其の他の事に要する経費の全體であります。隨て在來持合せの衣類其の他の日用品の調製に要した費用や父母の財産の一部を分與する所謂特參金等は勿論含まれて居るのであります。

結婚費は中流以下の家庭では一時に之れを支出する事が甚だ困難であります。故に此種の家庭では尠くも其の半額は本人の幼少の頃から結婚費として積立てる習慣を付ける事が必要であります。

又中流以上の家庭では結婚に際して妄りに多くの衣類を拵へて持參させる悪い風習があります餘り必要

二、婚約の前後には両親其の他の監督の下に互に相識る機會を成るべく多くすること。

結婚せんとする男女が互によく相識ることは最も必要な事でありますが我邦では兎角仲介人の言葉にのみ信頼して本人同志の交際は寧ろ之を避けさせる様な傾があります。之がため結婚後になつて初めて双方の缺點が知れ意氣の投合しない爲め遂には破鏡の嘆を見るに至る例が甚だ尠くないのであります。故に婚約前後には成るべく交際の機會を多くして互に其の人の性情趣味等をよく知り合ふ様にしたいと思ひます。此の場合にはお互に自重してさへ居れば忌はしい過失は起り得ない譯でありますがそれにしてても青年男女の事でありますから大事の上に大事をとつて必ず両親其の他の監督の下に交際させる様に

することは疎かな傾きがあります。徴兵検査の結果に依りますと壯丁の約半数は花柳病者であるといふ事であります。尙外見上健康の様で意外の疾病を有つて居るものも尠くないといふ事であります。これが爲め結婚後不幸な結果を見る例が尠くありませんから婚約に先きだち最も責任ある醫師の健康診斷書を相互に取交することが必要であります。

二、婚約の前後には両親其の他の監督の下に互に相識る機會を成るべく多くすること。

結婚せんとする男女が互によく相識ることは最も必要な事でありますが我邦では兎角仲介人の言葉にのみ信頼して本人同志の交際は寧ろ之を避けさせる様な傾があります。之がため結婚後になつて初めて双方の缺點が知れ意氣の投合しない爲め遂には破鏡の嘆を見るに至る例が甚だ尠くないのであります。故に婚約前後には成るべく交際の機會を多くして互に其の人の性情趣味等をよく知り合ふ様にしたいと思ひます。此の場合にはお互に自重してさへ居れば忌はしい過失は起り得ない譯でありますがそれにしてても青年男女の事でありますから大事の上に大事をとつて必ず両親其の他の監督の下に交際させる様に

もない澤山の衣類を新調し空しく簞笥の底に寝かして置く事は甚だ無意味で經濟上これ位無駄な事はありませぬ。故に結婚の際は差當り必要な衣類一通りだけを持たせて遣つて其の餘りの金は之を銀行預金なり有價證券なりで持参させ必要に應じて新調させる様にする方が何程都合が知れませぬ。

四、新婦及婿養子の入籍手續は結婚式舉行と同日に之を行ふ事。

結婚の式を擧げると同時に法律上の結婚手續をする事が當然であります。然るに世間では往々之を輕視して長い間届出を怠り甚だしきは態と内縁の妻又は婿として幾年も打ち棄て置き之を世間普通の事と心得て居るものさへある様であります。斯様な事は國民の品位にも關係します。尙之が爲め出産のあつた場合其の届出に不都合を生じたり離婚を容易ならしめたりする弊があります。故に斯様な弊風は速に之を打破し豫め準備して置いて結婚式舉行の同日に其の手續を済ます様に致したいと思ひます。

五、結婚式は自宅又は神聖の場所に於て之を行ひ料理店等を避ける事

るのに都會では之を料理屋旅館等で行ふ事が屢々あります。併しながら之は本來の趣旨を無視した振舞で決して當を得たものではありません。故に出来る限りは之を自宅で行ふ様にし、さもなければ神社、佛閣、教會等の如き神聖な場所を撰ぶ様に致したいと思ひます。

六、披露の會は成るべく自宅に於て之を行ひ簡略を旨とし招待客は親近者に限る事、但結婚の通知は此の限りにあらず。

我國に於て結婚の披露といへば上流に於ては一流の料理店。ホテル等で贅澤な饗宴を催すことが殆んど普通に成つて居り中流以下にあつても身分不相應に派手を競ふ風があります。本來披露會は饗宴が主でなく新郎新婦を特別の縁故ある人達に紹介するのが本旨でありますから饗宴は出来るだけ簡略にし平素餘り親しく交際して居らぬ人達までも妄りに招待して盛大を誇る様な風は斷然廢めたいと思ひます。隨て披露會の招待客は親近者だけに限るべきものであります。結婚の通知は決して左様な狭い範圍に限るべきものではありませぬ。死去の場合と同様成るべく廣く知合の間に發表し出来るならば新聞紙の一

隅に餘り自立たぬ程度の廣告を出すか又は新聞紙の方で社交欄を設けて載せる様にしたならば頗る便利と思ひます。

七、披露會の席上新婦の色直し(着換)を廢する事。

中流以上の披露會では色直しと稱へまして開宴中新婦が幾度も席を離れて衣裳を着換へ再び席上に顯はれる風が行はれて居ります。これは無作法でもあり且つ結婚式の前後に於ける新婦の衣裳披露杯と同様華奢を誇る以外には何の意味もないばかりでなく之れが爲め自然嫁入仕度を贅澤にする弊がありますから此の如き惡風は全廢すべき事と思ひます。

八、祝儀品は虚飾を避け祝儀返しを廢する事。

我國の贈答は兎角虚禮虚飾に流れる事が多いのであります。結婚の祝儀品には特に其の弊が多い様であります。結婚の祝儀品としては普通行はれてゐる外観ばかり立派に飾り立てた物よりも寧ろ新家庭に直に役立つ實用品や記念として永く身につけ座右に置くことの出来る品が適當と思ひます。之又れ等の贈り物は衷心祝意を表したいといふ誠意を表したいといふ誠意から來たもので決して返禮を豫期した御義理一遍のものではないのでありますから之に對して

從來の様に形式的なお返しをするのは却て先方の好意を無にする事になります。故に在來の所謂祝儀返しといふ習慣は斷然廢止する事に致したいと思ひます。

各國結婚費比較 (一九一五年調英國ハ) (ウスキーピング誌所載)

國別	年收一萬圓ノ家庭	年收二千圓ノ家庭
英	八分	一分
佛	一分	一分
獨	二分	一分
米	四分	二分
伊	四分	四分
西	五分	七分
露	八分	七分
日	二〇割	二五割
支	三〇割	三〇割

◎ 兵 事

□ 現役陸軍退營者

ABUGUNPO

本部出身現役軍人にして大正九年十一月現役満期又は歸休を命ぜられ歸郷したる者に付進級の状況下士適任證書及善行証書を受けたる者並處罰せられたるもの左の如し

大正九年定期退營者

Table with columns for village names (町村名), rank (階級), and status (別). Rows include names like 秋、椿、山、明、川、生、地、德 and their corresponding ranks and statuses.

Table showing military advancement statistics for various regions (高嘉、高保、吉部、福川、紫福、大井、奈古、宇田、福賀、須佐、彌富、小川、田萬、六島、見島、合計). Columns represent different metrics or years.

陸軍現役兵進級者

本部出身現役兵にして大正九年十二月一日陸軍下士に進級せしもの左記の如し

ABUGUNPO

産業

農事視察報告 (其の四)

阿武郡産業技手 山時 隆 信

静岡縣下の茶樹栽培及製茶法
静岡縣の茶樹栽培反別は一万三千町歩(全國約五萬町歩)
産額三百十四萬三千貫(全國約九百萬貫)金額六百萬圓余
にして(全國約千五百萬圓)實に全國の第一位を占め第二
位なる三重縣又は京都府に較べて四倍半乃至五倍の多き

Table with columns for unit names (服役部隊), rank (任官), village names (町村名), collection year (徴集年), and names (氏名). Rows include 歩兵第四聯隊, 歩兵第七聯隊, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全, 全.

を有し一郡にても百萬圓以上の産額を有するものがあつて他府縣の一縣に相當し一ヶ村で十數萬圓の生産を有するもの數ヶ村あり静岡縣の一村で徳島縣の全産額と相同し状態である以て其の一斑を窺ふことが出来る、殊に最近静岡縣の再製茶は長足の發展を遂げて従て清水港よりの輸出も非常の増加を示し明治三十三年に漸く十五萬八千斤價格六萬圓を輸出したに過ぎなかつたが年々増進して四十四年度即ち十一年後にて千八百萬斤價格八百六十五萬圓の輸出額に達し再製會社及外人商館の如き横濱より全部静岡に移り己に數十の商館會社が静岡に軒を並ぶる有様である
而して今之が發展の経路を調ぶるに例へば安倍、大井、天龍、富士川等の上流地方の山間には自然茶ありて遠州の秋葉山の奥の方には高さ十二尺周圍六十二尺株の直径二十二尺と云ふ大茶樹ありて既に三百年以前より製茶に従事せしは明らかなら共今日の盛大に至りしは安政年間横濱に外國貿易の開始せられたる以後にあつて明治初年徳川氏駿遠二國を領するに至り八萬無祿の士族に授産の目的を以て茶園の開拓を奨励したる事が斯業發達の基礎をなしたのである、遠州牧の原の如き一萬五千町歩の原野で目下千五百町歩の大茶園は此時以後に出來又三方原

の如き又富士裾野の如き皆明治二年頃より十年頃にかけて十族又ば地方人によりて開墾されたのが抑も今日の茶産地にある大原因である従て茶業組合の如き縣聯合會議所の如きは明治十七年に製茶検査所と稱し經費僅かに一千余圓にて粗茶取締のみを行ひしが二十二年に改稱して漸次發達を遂げ近年は約拾萬圓の經費を以て販路擴張及生産改良の事業を行ふてゐる茶の試験場なども明治四十年に縣營となりて年々一萬二三千圓の經費を以て茶園や製造上の試験を施行しつゝあり、又各郡市茶業組合の如き大部にありては既に一萬圓余の豫算を立て盛んに茶の取締りをなして進んで栽培製造上各種の指導奨励をなし銳意茶業の發展を企圖しつゝある次第である

反當八十萬圓の總收入、茶業が利益があるとか利益がないとか色々な説があるが静岡縣で普通中等茶園で三番茶迄併して百五十貫より二百貫位の收穫量がある極安く見て平均三十錢には樂に賣れるから反當四十五圓から六十圓の收入は容易である、上等茶園になると二百五十貫の生葉は採れるから例へば一番茶百貫(一貫三十五錢)で三十五圓二番茶七十貫一貫三十錢で二十一圓三番茶八十貫(二貫二十錢)二十圓計八十圓の總收入は容易である茶園には随分上下の區別はあるから一定しないが静岡縣下で

は烟草とか果樹などを除いては他の農作物に比して茶以上の利益ある作物は少い、榛原、小笠原地方では平年稲作と茶樹とは大約二倍の收入あるは普通である茶業の利益は決して一般に考ふる程少くはない、之を適當に經營するに於ては畑地の農業としては決して収益少いものではない若し製茶に計上せんにには優に反當四十貫乃至五十貫を出で收入は八九十圓乃至百圓以上に達すべく管理行届ける茶園には一層利益多し

静岡縣上等茶園收支計算

總收入金	一七〇圓四三三
製茶量	六八貫六四九
單價	二圓五五四
總支出金	一三四圓四四八
內 栽 培	七四、〇八二
製 造 費	六〇、三四三
施肥額	二九、四五八
摘採賃	三〇、〇〇六
純益金	三九、三五九

榛原郡茶業組合模範茶園
志太郡茶業組合模範茶園

總收入金	一七二圓八九四
小作料	一九圓九四七
肥料	三二、三〇六
耕耘費	一一、四三三
其他	一、八四三
病虫害	三三、三二七
防除費	五八、五五〇
摘採賃	一五五、三七三
製造費	一七、五二一
總支出金	一七、五二一
純益金	一七、五二一

茶園の行事

茶園の利益斯の如くなれば静岡縣の茶業者は相當茶園の手入にも丹精を盡し施肥量の如きも年々増加す今日は平均十五圓の金肥を手間肥の外に用ひ施肥の時期方法も大いに改善さる夫々の土地に應じたる茶業年中行事を作り之を廣く當業者に配布して施肥耕耘剪枝等凡ゆる茶に對する仕事を順席よく時期を誤らず手入する様に奨励す

- 一、其年の製造方針を研究し茶師茶摘の雇入豫約をなすこと
- 二、茶園日誌製造日誌其他帳簿を作製し置くこと

- 一、薪炭紙糊熱風火爐等の共同購入をなす事
- 二、肥料剪枝(茶採中密枝及勢力弱き枯枝等を切取る事をなすこと)
- 三、耕土淺き茶畑及土性惡しき畑には容土法を行ふ事
- 四、各種器具の修繕をなし焙爐及蒸置の築換をなすこと
- 五、芽出肥又病虫害防除藥品の共同購入

- 一、茶種は彼岸迄に播下
 - 二、發芽前除草及淺耕をする
 - 三、淺耕と同時に芽出肥として殊に一番茶の香味に適する下肥又は油粕の腐熟せしめたるものを施す
 - 四、綠肥として間作青刈大豆の栽培
 - 五、茶樹病害豫防として四斗式ボルドウ液の散布
- 一、三月中に芽出肥の遅れたる時は晚くも十日迄に液肥として施す

- 二、茶部屋及製茶器械其他製造用具の整頓
- 三、害虫赤ダニ、蚜虫、蝸蝓の發生に注意すべし
- 四、晩霜の襲來に注意を拂ふべし
- 五、茶畑鍬入れの模様除草すべし
- 六、早場所は一番茶の摘採に着手す
- 五 月
 - 一、早々一番茶摘採製造、摘採期は硬葉摘とならざる様早摘とし摘採を奨励して黄葉莖枝塵埃の混入防止
 - 二、摘採後は摘採に踏み固められた作圃の淺耕(根元に鍬入れざる)
 - 三、淺耕と同時に御禮肥として速効性液肥を施用す
 - 四、品質本位の茶園にては一番茶摘採後直に剪枝をなす
 - 六 月
 - 一、今月は二番茶の摘採時期なれば努めて摘取りを後れざる様注意し早摘すること
 - 二、二番茶摘採後直ちに剪枝を行ふこと(二番茶に剪枝せば翌年一番茶の品質は劣れるも全年の収葉量多し)
 - 三、三番茶には浮塵子の害多し故に驅除を怠るべからず

- す驅除には除虫菊加用石油乳劑の二十倍液を散布すること
- 四、摘採後中耕をなすこと然し根元に鍬入れせず根を切らぬ様注意すべし
- 五、青刈大豆を栽培したる時は開花前に鋤き込べし六中耕終らば直ちに腐熟したる液肥を施すこと
- 七 月
 - 一、敷草は乾燥を防ぎ草止する目的とすれば可成早く敷込むべし
 - 二、害虫の發生に注意し凡て適當なる藥劑を以て驅除すること
 - 三、茶樹は夏季最も吸肥盛なるを以て水肥を枝に施すべし
 - 八 月
 - 一、三番茶摘採も必ず嫩芽摘とすること(嫩芽摘とすれば晩芽の伸長良好にして翌年一番茶の収葉量を増加す)
 - 二、摘採後直ちに除草淺耕を行ひ同時に追肥(糞肥として液肥を多量に施すべし)
 - 三、乾燥甚しき時期なれば二三年生の茶樹には注意すること

- 九 月
 - 一、生育良好なる茶園にありては徒長芽飛芽の摘取をなし摘取面積を平均ならしむ
 - 二、茶園の深耕を行ふこと(深耕方法は二鋤起しとし兩落を標準として七八寸の深さに耕起し枝根を切りて吸肥根の發生を促すべし)但し茶園耕土の深淺に注意すべし
 - 三、深耕終れば秋季基肥は今月中に施用すべし基肥は少く深く施し能く土と混和し置くべし種類は鯨粕大豆粕油粕を用ひ三要素の配合に注意すること
 - 十 月
 - 一、茶園に基肥を遅れたる時は晚くも今月中に施用のこと
 - 二、葉枯病發生の際はホルドウ液を散布すべし
 - 十一 月
 - 一、茶樹の根元に土寄を行ふこと
 - 二、二、三年生茶園には冬傷を防ぐ爲り摘草を行ふ
 - 三、茶樹園花期なれば努めて蕾を摘收すること
 - 十二 月
 - 一、寒冷加はるを以て茶園に鍬入れを行はざる
 - 二、冗枝剪枝は本月より初むべし

- 三、本年中に於ける諸帳簿の整理をなし收支計算を明にし翌年の參考に供すること
- 茶業部に於る肥料の種類施肥期及反當施肥量
- 秋基肥(九月中旬)
- 鯨粕 八貫五
- 過磷酸石灰 四、〇
- 硫酸加里 二、〇
- 大豆粕 二〇、〇
- 寒 肥(二月上旬)
- 種子粕 一五、〇
- 大豆粕 一二、〇
- 過磷酸石灰 二、〇
- 硫酸加里 二、〇
- 夏 肥 第一回一番茶後春肥と同一の液肥又は下肥
- 第二回 二番茶後 前記の肥料又は硫酸アンモニア
- 或は智利硝石を用ふ
- 綠 肥 (七月上中旬)青刈大豆を二百貫乃至三百貫を鋤き込む

緑茶製造方法

緑茶の品質は園の良否に關係するは勿論なりと雖製造に要する設備の整否及製造方法の巧拙に因るや明なり而して製茶の香氣水色滋味色澤形状等の完全を期せんとするには製造中終始細心の注意を要す今製造中一貫して最も緊要なる通則と認むべき事項を擧ぐれば

- 一、酸化作用を避くること
 - 二、蒸しめざること
 - 三、急激なる温度の變化を與へざること
 - 四、力と温度との調和を圖り水分の發散をよくすること
 - 五、力の最もよく利く姿勢を保つこと
- 一、生葉取扱
- 生葉の取扱は茶葉を損傷せざるを以て目的とす
- 一、摘採したる生葉は直ちに製造するを良とす
 - 二、摘採したる生葉は風の通さざる室内に取置くと良とす
 - 三、生葉の容器は籠若くは底部を竹張にしたる深さ三四寸の箱を用ふるを可とす
 - 四、生葉の容器には生葉を薄く入れ棚を設けて挿入れ置くと良とす
 - 五、茶葉は荏凋を行はざるを可とす

二、蒸葉

蒸葉の目的は茶葉の弾力性を去り酸化の作用を失はしめ以て其の綠色を保存し且良好なる香味を發せしむにあり

- 蒸葉の裝置
- 一、籠は火通りよく築くこと
 - 二、口徑尺八寸鶴鶴は金に飯く用ふるを可とす但し蒸釜の水量は鏝下一寸を通過とす
 - 三、飯上節を狭めたる高さ尺二寸位にして蒸氣の能く利くものを用ふるを可とす
 - 四、蒸籠は直徑尺六寸深さ四寸にして底へ銅鋼を張りたるものを用ふるを可とす
- 但し蒸籠の底部には蒸氣の逸失を防ぐ爲め布片を張ること
- 蒸葉の方法
- 一、蒸籠に入る、生葉量は百五十匁を超ざるを可とす
 - 二、飯上りける蒸籠は蒸氣の強く吹き出すを度として蓋を去り箸を入ること
 - 三、箸は軽く使ひ萬遍なく能く攪拌して蒸熱を平均すること

- 四、再び蓋をなし暫くして強き蒸氣の蓋間も逸出したる時は蓋を三回打ちつゝ蒸氣の匂を嗅ぎ青臭み去り良き良香を生じたるを適度とし蒸籠を取外す事
 - 五、冷臺に移したる蒸葉は速に冷却するを要す
 - 六、蒸したる葉は手籠に移し薄く擴げ置き直ぐに焙爐に投入すること
- 蒸葉量と製造時間
- 一、焙爐の蒸葉量及其製造時間は茶葉の良否及製造方法の精粗如何に依り一定し難しと雖左記の標準に依るを良とす

上茶手工製製造工程比較表
並茶手工製

並茶手工製		上茶手工製	
手續	時間	手續	時間
露切	三十分	露切	三十分
廻轉	四十分	廻轉	四十五分
中大操切	二十分	中大操切	三十分
轉製	二十分	轉製	二十分
計	二時間上	計	三時間上

一日に		一日に	
生産費	六貫匁	製茶量	四貫匁
薪炭量	薪二貫四百匁	薪炭量	薪二貫匁
衣裳量	炭一貫五百匁	衣裳量	炭一貫五百匁
製造高	製茶一貫五百匁	製造高	製茶一貫匁
焙爐回数	五回乃至六回	焙爐回数	四回
労働時間	十三時間	労働時間	十三時間

並通製蒸葉一貫匁 (釜茶向二時間乃至二時半 籠茶向三時間乃至三時半)

- 三、下揉み
- 葉乾 葉乾は揉捻の準備にして適度迄水分を減せしむるを以て目的とす
- 一、葉干は最初水分の多き間は抱き葉の出來易き虞あるが故に手使と敏達にして茶葉を助炭面に擦り付さる指先にて軽く拾ひ能く指先を働かして葉振をなし助炭の全面に軽く落すこと
 - 廻轉揉 廻轉揉に茶葉を集散しつゝ、適度の壓力を加へ普く助炭面に廻轉せしめ水分の蒸發を能くし茶葉をして損傷せしめず而も能く揉捻せしむる目的を以てす
 - 一、初めは小手に頻りに轉かし助炭面をなるべく廣く

利用し手使の速度は水分の乾き加減に依り緩急を計り手首を働かしめ茶葉を仰へ付けず能く旋轉する様心掛くべし

二、廻轉採の進むに従ひ漸次力を増し肘を下け手首及腕を使ひ茶葉をして能く廻轉せしめ莖の水分を減せしむる様採捻し手觸り柔かにして葉色青色を保たしむ事

三、廻轉採は採捻の爲め生じたる團塊を解くを以て目的とす終りに近づけば力を極めて能く採捻し水分の浮ぶに至りて止み夫れより玉解に移るものとす

玉解採 玉解採は採捻のため生じたる團塊を解くを以て目的とす

一、玉解採は強力廻轉採を終りたる時直ちに行ふ方法にして一時に力を弛緩めざる様頻繁に横ころがしをなしたる捻採切の手使にて茶葉の團塊を解き上乾きをなさしめ之れを爐外に取出すものとす

二、玉解採は終りを中上げをなす程度は概略蒸葉量の半減を標準とす

三、中火茶を取扱ふ容器は圓く網代目に造りたる淺を平籠を用ふるを可とす

四、玉解を終りたる時は中火と稱して爐外に取出し直

に熱冷ます且つ助炭を拭ひ仕上採の準備をなすものとす

中上げ 中上げはなすは茶葉の乾き加減を均一ならしむるを以て目的とす

一、爐外に取出したる茶は温度を冷しつゝ採切をなし茶の形状を良くすること

二、中大茶を爐外に放置すること久しきに亘る時は茶の香味を損すること甚しき故放置時間は左の標準に據るものとす

一番茶十五分間以内 夏茶十分間以内

四、上げ採み 中切採みは上乾きを防ぎ捻れ形を整ふるを以て目的とす

一、中切採の最部は茶葉の水分半減したる時にして茶葉の外面乾燥し然かも蒸熱を起し易きが故に最も肝要なる操作にして特に細心の注意を要す

二、中切採の手使は始めは迅速に之手拾ひの葉採みをなし軽く採み落し干くに從ひて手三拾ひ二手返しの方法に依り葉揃に留意し順次締めて固くし茶葉を圓く掌中に納め小指及食指を締り採み込の始めは力を軽く入れ自然に力を加へ茶葉は中心より

採み落つる心持にて指を巧に働かしむる様採切をなし腰より振込みて体力を自由ならしむる姿勢に注意するを要す

轉繰採 轉繰採は比較的少き勞力を以て採切法に比し割合多量の茶葉を一手に納め形状を整へ特に伸直ならしむるを以て目的とす轉繰採の手使は茶を助炭の中央に集り兩手を以て之を堆く持ち順次手の操作に由り廻轉せしめ手は交互に受け押手となるあり

右手は臺の周圍に散りたる葉を搔寄せつゝ臺を締の乍ら引上げ兩手の手首の出合たる時左手に渡すなり之を送り手と稱す左手は臺を締めつゝ之れを受取り小指の方へ力を入れ上部より葉の廻轉する様指を反らして押し其の返り手にて散りたる葉を搔寄せつゝ少し引上ぐる具合にて茶を右手に渡すなり最初左手に茶を渡したる右手は直に臺を離れ掌を上向にして茶を揃ひ再び茶の臺に突込ひや否や小指を少し締める心にて掌を返し小指の方に力を入れ指を反らして押し其の返り手は又茶を搔寄せつゝ兩手首の出合ふ様引上ぐるなり

斯の如く左右の手使にて茶を受けては渡し渡しては受くるなり其の台の位置は孤狀に振る手の勢にて始終方向を轉じ常に茶の散りたる所に手を伸はし集めては採み採み

ては散らし順次兩手の掌中に入り左右兩面に廻轉するが故に茶は順次平均に干きつゝ形状伸長するものなり右手は茶を寄せ臺下に突込むときは掌を上向きにし又押す時は指を反らし其の返り手は小指及紅差指の指頭を少し曲ぐる心持にて茶の臺を締めることを要す

左手は葉渫子及押手とも始終指を反らして可なり足は手使の方向に伴ひ踏み替へて体の中心を保ち肩及腰の姿勢を整へ手使の自由に便ならしむべし

散し轉繰採 中切採みを終り轉繰採に移りたる時は五分乃至十分間散し轉繰と稱し茶の臺を緩く持ち手使を大きくし且つ成るべく迅速に廻轉して茶を固めず亦蒸せざる様能く手心を用ひ茶の色澤及香氣を善良ならしむ事肝心あり

強力轉繰採 一茶の干くに從ひ手使を静かにし順次力を加へ臺を固く締の振りを少くし茶の飛散を避け且寄手に注意し掌中の茶として互に相摩擦せしめ茶の圓く締る様力を利かしむる事

仕上採 仕上採は形状として伸直ならしむるものと否らざるものとの別ありと雖品質を損せずして形状を善美ならしむるを以て目的とす二手分けの程度轉繰採みを行ひ茶の形状漸く良好となり一手にては十分力を加へ難き干

採み落つる心持にて指を巧に働かしむる様採切をなし腰より振込みて体力を自由ならしむる姿勢に注意するを要す

轉繰採 轉繰採は比較的少き勞力を以て採切法に比し割合多量の茶葉を一手に納め形状を整へ特に伸直ならしむるを以て目的とす轉繰採の手使は茶を助炭の中央に集り兩手を以て之を堆く持ち順次手の操作に由り廻轉せしめ手は交互に受け押手となるあり

右手は臺の周圍に散りたる葉を搔寄せつゝ臺を締の乍ら引上げ兩手の手首の出合たる時左手に渡すなり之を送り手と稱す左手は臺を締めつゝ之れを受取り小指の方へ力を入れ上部より葉の廻轉する様指を反らして押し其の返り手にて散りたる葉を搔寄せつゝ少し引上ぐる具合にて茶を右手に渡すなり最初左手に茶を渡したる右手は直に臺を離れ掌を上向にして茶を揃ひ再び茶の臺に突込ひや否や小指を少し締める心にて掌を返し小指の方に力を入れ指を反らして押し其の返り手は又茶を搔寄せつゝ兩手首の出合ふ様引上ぐるなり

斯の如く左右の手使にて茶を受けては渡し渡しては受くるなり其の台の位置は孤狀に振る手の勢にて始終方向を轉じ常に茶の散りたる所に手を伸はし集めては採み採み

ては散らし順次兩手の掌中に入り左右兩面に廻轉するが故に茶は順次平均に干きつゝ形状伸長するものなり右手は茶を寄せ臺下に突込むときは掌を上向きにし又押す時は指を反らし其の返り手は小指及紅差指の指頭を少し曲ぐる心持にて茶の臺を締めることを要す

左手は葉渫子及押手とも始終指を反らして可なり足は手使の方向に伴ひ踏み替へて体の中心を保ち肩及腰の姿勢を整へ手使の自由に便ならしむべし

散し轉繰採 中切採みを終り轉繰採に移りたる時は五分乃至十分間散し轉繰と稱し茶の臺を緩く持ち手使を大きくし且つ成るべく迅速に廻轉して茶を固めず亦蒸せざる様能く手心を用ひ茶の色澤及香氣を善良ならしむ事肝心あり

強力轉繰採 一茶の干くに從ひ手使を静かにし順次力を加へ臺を固く締の振りを少くし茶の飛散を避け且寄手に注意し掌中の茶として互に相摩擦せしめ茶の圓く締る様力を利かしむる事

仕上採 仕上採は形状として伸直ならしむるものと否らざるものとの別ありと雖品質を損せずして形状を善美ならしむるを以て目的とす二手分けの程度轉繰採みを行ひ茶の形状漸く良好となり一手にては十分力を加へ難き干

加減に至らば之を二分して仕上採みを行ふを可とす二
 手分を行ふに方り最も注意を要するは先づ全部の茶を兩
 手にて固く締め之を静かに左右に振る時は比較的干きた
 るもの及葉質の良好ならざるものは振り出され又嫩芽及
 能く捻ひたる長きものは掌中に残るが故に之も分別して
 二手となし前者は暫く之を採り出して箕に移し置き後者
 は先に仕揚げ然る後前者を仕上ぐるを最も良しとす
 小手の仕上採(一名コクリ)コクリの手使は受手の腕を乳
 の下に付て押手は脇腹に引寄せ押す時は腰を少しヒナリ
 肩を落して押し小指の方に力を利かし少し握る心にて指
 先の節より曲げ受手の指を程長く曲げ伸ばし廻轉を自由
 ならしめ茶を固く持ち而かも茶をして個々に擦し合はし
 むお様巧妙ある加減を要す、コクリを行ひ手の外に出て
 たる茶は成るべく柔かに且無駄手を使はずして良く葉の
 揃ふ様手使ひなし且少しく長くなりたる茶の臺は二つに
 切り手元の分は両手の指先にて締め手を低く使ひ少し重
 なる位に横に合せ一手となし程良くコクリを行ふ事數回
 に及ぶべし

四、干 燥

茶の干燥は佳良なる風味を發揮せしめ且貯蔵に堪へしむ
 るを目的とす茶を干燥するには最初隱居焙爐と稱する

助炭に薄く散布し略は干きたる後煉火と稱し數時間之を
 放置し水分の十分散逸したるを度として干燥器外に取出
 し暫く熱を去らしめ然る後貯蔵器に移すべし
 尙將來は製茶の組織を改良して共同事業として出來得る
 限り茶業の利益を收利を大ならしむる必要がある
 製造上蒸しの如きは蒸器を備へて共同蒸して行はば將來
 大に製品を優良ならしめ蒸し費用は著るしく減少する事
 が出來る、焙爐の如きも其の構造を完全にし木炭を經濟
 に使用して火力のよく利く様にすれば又生産費を減する
 事が出來る尙共同製造場を設置するが如きは最も必要な
 る事項である(終)

現在使用せる稻扱器

近時農業に對する一般營業者の知識の増進せるを認むる
 に難からず就中改良せられたる農具を使用して大に勞力
 の節減に努むる所あるは喜ぶべきことなりとす大正九年
 十一月現在に於ける郡内に使用せる稻扱器の種類其の他
 左の如し

器械ノ種類	個	數	購入戸數	購 入 町 村
シート式	一、〇九八	一、〇九四	一	萩、椿、明木、佐々並、篠生、生雲、地福、嘉年、高俣、吉部、福
エヌ式	五一	五一	一	萩、紫福、大井、奈古、宇田郷、福賀、須佐、彌富、田万崎
花村式	一三	一三	一	萩、高俣
三益式	三三二	三三三	一	萩、山田、明木、佐々並、川上、高俣、吉部、福川、紫福、大井、
谷川式	六八八	六九二	一	奈古、宇田郷、福賀、彌富
一三式	二〇	二〇	一	萩、椿、佐々並、川上、篠生、生雲、地福、徳佐、嘉年、高俣、吉
西原式	三	三	一	萩、川上、高俣、吉部
在來式	四八七	二〇九	一	萩、椿郷東分
儀式稻麥扱器	六五	六七	一	椿郷東分、篠生、生雲、嘉年、高俣、大井、宇田郷、田万崎
宥免式	二六二	二六二	一	椿、山田、明木、川上、篠生、大井、宇田郷
阿伊式	六	五	一	三見、生雲、田万崎
柳伊式	二	二	一	明木
宮色式	二四〇	二三六	一	佐々並
文明式	二	二	一	篠生
池田式	七三	八七	一	篠生、嘉年、吉部
B式	三	三	一	篠生
富田式	五〇一	五〇四	一	篠生、地福、嘉年、吉部、福川、紫福、大井、宇田郷、福賀、彌富
東洋式	一	一	一	小川、田万崎
梅光式	一	一	一	篠生

阿武式	二三	二三	福川
能美式	二九	二九	須佐
其他	一五四	一五四	
計	四、〇四四	三、七八一	

大正九年九月末日に於ける阿武郡内の各種規約貯金の現在左の如し

預入先	貯金高	貯金人員	最高		最低		平均
			一人	當	貯金	高	
郵便貯金	三六、九三四	三、三〇七人	五、一一〇	一、〇六六	一、一六八	一、二三九	
産業組合	四四、六六三	四、三六二	七五、二二二	一、〇〇〇	一〇、二七〇	一〇、二三九	
銀行	一五、九六五	四七七	一一八、六七八	一、〇二八	三三、四七〇	三三、四七〇	
其他	六、三四九	一、〇四三	一五、〇〇〇	五、二七四	六、〇五七	六、〇五七	
計	一〇三、九一一	九、一八九					

参考資料

(1)

ABUGUNPO

立	三	明	椿	高	篠	宇	木	川	長	篠	越	下	佐	龜	持	福	半
野	見	木	西	瀨	生	田	間	上	高	目	濱	川	並	山	坂	川	田
九九、三二	九八、二五	九八、八七	九八、六七	九八、八九	九八、四一	九八、九一	九九、〇〇	九八、九八	九七、七五	九八、三七	九八、八二	九九、一五	九七、八七	九七、七一	九七、九八	九七、二五	九七、九〇
一〇〇、〇〇	九九、五四	九九、五八	九九、三二	九八、七七	九九、〇六	九八、三一	九八、二八	九八、〇七	九九、七〇	九八、〇四	九七、四一	九六、一一	九七、八六	九七、九〇	九七、一一	九七、五四	九六、五四
九九、六一	九九、三二	九九、二一	九八、九九	九八、八四	九八、七四	九八、六一	九八、五六	九八、五五	九八、三九	九八、二二	九八、一一	九七、九二	九七、八七	九七、七六	九七、五七	九七、三九	九七、三八
十一月	十二月	十一月	十二月	十一月	十二月	十一月	十二月	十一月	十二月	十一月	十二月	十一月	十二月	十一月	十二月	十一月	十二月
一	三	二	六	七	八	八	三	〇	四	四	二	一	四	五	二	一	一

目次

一、町村立小學校尋常科兒童出席步合表(十二月分)……………一

二、同 高等科兒童出席步合表(同)……………三

三、阿武郡內尋常小學校缺席狀況(第二學期)……………五

四、阿武郡內小學校兒童出席狀況(第二學期)……………五

五、町村吏員給料及報酬月額(大正九年末調)……………六

六、阿武郡內米生產高(大正九年分)……………八

ABUGUNPO

生椿福明宇佐地奈椿明嘉	學校名	本月郡平均	前月郡平均	吉見福生
雲東田倫田並福古西木年	二、町村立小學校高等科兒童出席歩合表	九六、六八	九七、四五	九〇、九四
九七、四四	男	九五、四九	九五、五四	八八、五八
九七、八三	女	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九八、六四	計	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、一三	本月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九八、六二	前月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九八、八五	位	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、三二	十二月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、九二	分	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、一五	前	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、三九	位	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、五八	本月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
一〇〇、〇〇	前月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、八四	位	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、四九	十二月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、八三	分	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、五七	前	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、一六	位	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九九、四一	本月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九八、五七	前月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九八、二〇	位	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九八、九四	十二月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九八、〇三	分	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九八、五一	前	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九七、四四	位	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九七、八三	本月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九七、四四	前月	九一、六五	九六、五二	八八、〇八
九七、四四	位	九一、六五	九六、五二	八八、〇八

ABUGUNPO

上藏白德椿野紫相高育彌小地奈明大鈴嘉多	學校名	本月郡平均	前月郡平均	吉見福生
川喜水佐東呂福島侯英富川福古倫島井川年磨	上野	九三、三八	九二、〇五	九〇、九四
九二、〇五	男	九一、八〇	九四、〇七	八八、五八
九六、二〇	女	八八、一八	九四、〇七	八八、〇八
九六、〇七	計	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、七三	本月	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九五、七三	前月	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、二四	位	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九五、二一	十二月	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九七、六三	分	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九七、五二	前	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、〇六	位	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、七九	本月	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、五八	前月	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、四二	位	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九七、一七	十二月	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、五八	分	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九七、六三	前	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、五八	位	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、五八	本月	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、五八	前月	九一、二五	九四、一四	八八、〇八
九六、五八	位	九一、二五	九四、一四	八八、〇八

ABUGUNPO

見	六	田	小	彌	須	福	字	奈	大	紫	福	吉	高	嘉	德	地	生	篠	川	佐	明
島	島	崎	川	富	佐	賀	郷	古	井	福	川	部	俣	年	佐	福	雲	生	上	並	木
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五〇、〇	四二、〇	五二、五	五四、〇	五四、〇	五〇、〇	四五、〇	五〇、〇	五〇、〇	五〇、〇	三八、〇	五〇、〇	四〇、〇	五五、〇	五〇、〇	五〇、〇	四〇、〇	五五、〇	四〇、〇	四二、五	四一、六	五〇、〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四五、〇	四二、〇	三六、〇	四五、〇	四五、〇	三七、〇	四〇、〇	四三、〇	四六、〇	三三、〇	四〇、〇	三八、〇	四五、〇	四五、〇	四四、〇	三八、〇	四五、〇	三七、〇	三七、四	三八、〇	四四、〇	四四、〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四〇	三三	三八	三四	三九	四〇	三三	三七	四〇	四五	三一	三五	三五	四〇	四〇	一五	三八	四〇	三四	三四	三六	四一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三八、〇	三一、〇	三六、八	二九、五	三〇、三	三七、〇	三一、〇	三六、五	三五、〇	四三、〇	二八、五	三〇、〇	二八、六	三八、〇	三六、〇	三一、一	二九、〇	三八、〇	三一、〇	三〇、六	三五、五	三五、五

ABUGUNPO

三	山	椿	椿	萩	種	五、町村吏員給料及報酬月額									大正九年未現在											
見	田	東	分	別	別	合	高			尋			計	計			計			計	計			計		
〇	〇	〇	〇	〇	〇	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男			
五〇、〇	五〇、〇	五〇、〇	六〇、〇	六六、六	六六、六	一六、七五六	七、九九八	八、七五八	二、二五六	八九七	一、三五九	一四、五〇〇	七、一〇一	七、三九九	一四、三七七	六、三、四四	六、三、四四	一、四、二七	一、三、二七	一、三、二七	一、三、二七	一、三、二七	一、三、二七	一、三、二七		
〇	〇	〇	〇	〇	〇	一四三、七一三	六七八、三三六	七四八、七七七	一九四、六六六	七五、〇九二	一九、五九四	二、三三、四二七	六〇三、四四	六二九、一八三	一、四三、七二三	九、三〇九	一〇、〇一四	二、四七三	九、九四	一、四七九	一、六、八五〇	八、三三五	八、五三五	一、四、九三九		
四一、〇	四〇、〇	五〇、〇	五六、六	五〇、〇	五〇、〇	一九、三三三	九、三〇九	一〇、〇一四	二、四七三	九、九四	一、四七九	一、六、八五〇	八、三三五	八、五三五	三九、五八五	二、二六七五	一七、九一〇	四、一九八	一、二二七	二、九七一	三、三八七	二〇、四四八	一四、九三九			
〇	〇	〇	〇	〇	〇	三九、五八五	二、二六七五	一七、九一〇	四、一九八	一、二二七	二、九七一	三、三八七	二〇、四四八	一四、九三九	三、九〇八	三〇、九八四	二七、九二四	六、六七一	二、二二二	四、四五〇	五、二、三三七	二八、七六四	二、三、四七四	一、四、九三九		
三一、五	三一、〇	三七、二	四一、〇	四四、〇	四四、〇	九六、〇三	九五、六三	九六、四一	九六、六九	九七、二	八九、二九	九五、九七	九五、四五	九六、四〇	三一、五	三一、〇	三七、二	四一、〇	四四、〇	四四、〇	三三、五	三三、五	三三、五	三三、五		

ABUGUNPO

第一回 第二回 豫想高	第一回 第二回 豫想高	平 年 收 穫 高	前 年 分	吉 福 紫 大 奈 宇 福 須 彌 小 田 六 見		計		
				萬	田			
				島	島 崎 川 富 佐 賀 郷 古 井 福 川 部			
			八四、九六〇	八六、七二三	二〇二、五	四九二、〇	七、四五〇	二八三、四八四
			一三三、二六二	一三八、九九二	三、一一八	五五一、三	一一、九六四	四七九、一六〇
			一四六、一六五	一五六、二〇五	一五、四	四七七、〇	七、二五五	二九一、五三五
						一九八、〇	六、二九六	二五三、〇四〇
						二六二、四	五、四三七	二一七、八八四
						一五〇、一	二、三九八	九三、三七八
						四六五、三	七、二四二	二七九、五四八
						三五四、五	四、五一三	一八一、〇一六
						三二六、〇	五、〇七〇	二一一、三五〇
						三九二、〇	四、五六〇	一八二、六一七
						二四九、一	三、八〇二	一五二、〇八〇
						五、四	一、五一	五二、二八五
						二〇二、五	三、一一八	一二四、七二〇
						八六、七二三	一五六、二〇五	六、一六八、〇二七
						八四、九六〇	一三八、九九二	七、二九一、三八九

ABUGUNPO

町	村	作 付	反 別	收 穫	高	價	額	備考	平
									均
萩	椿	東	六三、〇	一、七五八	七八、六六〇			一、德佐村收入役ハ小學校教員退隠料ヲ受クル關係上報酬少額ナルヲ以テ平均額ニ算入セス 本表中〇ヲ附シアルハ大体郡ノ示シタル標準額ニ達セルモノトス	四九、〇
椿	山	分	二五五、三	六、六三八	二六八、一七二				
山	明	分	一五八、三	三、九八九	一六一、八一六				
明	三	分	二二一、〇	四、〇三四	一六二、八一〇				
三	川	分	一七九、〇	三、八九四	一五五、七六〇				
川	佐	分	二三六、五	四、一八四	一七〇、〇一六				
佐	地	分	三七三、三	八、二〇八	三〇八、九五〇				
地	生	分	二二〇、八	三、〇八二	一二六、六八一				
生	篠	分	二九五、〇	六、一八五	二四八、五〇八				
篠	嘉	分	四八五、四	八、九二二	三四〇、六八四				
嘉	德	分	四三四、〇	九、二五一	三二四、七四五				
德	高	分	八一、四	一三、〇六七	五二三、七七八				
高	侯	分	四一〇、〇	七、三二六	二九三、三九七				
侯	年	分	四二三、八	六、四〇九	二四八、九五三				
								三四、三	

民力涵養のろい歌

(其三)

四 相互諧和して彼此共済の實を擧げしめ
 以て輕進妄作の憾みなからしむること
 け ふもまた言葉やさしく かはしつゝさがな
 きことは ゆめなめ語りそ
 ふ 具不幸 世にあればなる 人達をすくふに
 まさる 慈あらしむ
 こ としあらば すはと騒ぎて 身をのみか
 家をも世をも 捨るしれ者
 ね 手勝手 してよからめや 舫船もやひてぞ
 立つ 人の世の中
 て きたへる 人も味方に 輿射の海の ひろ
 さを巳が 心ともがな
 五 勤儉力行の美風を作興し生産の資金を
 増殖して生活の安全を期せしめよ
 わ さまたさ 晝は終日 終夜 精勵てころ
 國家は富強かれ
 さ ればとて すつべきものは世にはなき 神
 の恩の 頼ど嬉しき
 さ 一つに 塵も積れば 山となる山となる
 まで 金銭積まなむ

ゆ たかある 餘所の國々れもひやれば憂たか
 りけり 金力につけては
 め ばねまた ひこばねさへも する如く 殖
 増らなむ ものゝ基金
 み 上の民 田身はみ田族 あな尊く大御寶と
 戀すなり
 し めてける 住所生業 何時までも 巖に龜
 の心安くも
 (餘歌)
 ゑ りささむ 心を持ちて 計らなむ大戦の後
 の 始末ばかりは
 ひ ど毎にいと優れし國民と ねもひさだめ
 て はけり世界人類の爲
 も ろくの 國に比べて 尊きは我が心安の
 國にぞありける
 せ となりて 寄來る思想 こゝろせよ此處は
 神代ゆ ちら安の國
 す ゝめ只 進行世に後れざる 大御心に そ
 ひまつりつゝ
 ん は手に ありとあらゆる 術を竭し捉ふべ
 きなり ゆめな逃せそ

阿武郡報第五十三號

大正十年一月廿五日發行

◎大正六年十二月十九日第三種郵便物認可

◎毎月一回二十五日發行

一部(代價金拾錢)